

やまぐちっ子学力向上だより

第125号 R5.2.28

山口県教育庁義務教育課

～ 多くの人と関わりながら取り組む「DASH」～



- ① 教師と子どもが目的意識を共有すること
- ② 解法のポイントを捉えて丁寧な指導をしていくこと
- ③ 子どもが何度も取り組む場を設定すること



前号でお伝えした、「課題を課題のままにしない」取組にしていくポイントです。子どもが「わかる喜び できる楽しさ」を味わい、自信を付けていくために、問題に何度も取り組む場や機会を設定しましょう。例えば、

- ・学校において、朝学や授業の時間にグループで解いたり解法を説明し合ったりする場
- ・家庭学習として、保護者と一緒に解いたり解法を説明したりする機会

などが考えられます。県内には、地域の方と一緒に問題に取り組み、採点をしていただいている学校もあります。多くの人と関わることで、継続的な取組にしていきましょう。

今回は、算数・数学科の指導のポイントについてお伝えします。力を合わせて取組を推進していきましょう。

既習内容に基づいて説明する力を伸ばすために

第3回（全3回） 算数・数学科の指導のポイント「DASH」

◆ 既習内容に基づいて、根拠を説明する授業

「簡単な計算は身に付いているのに、理由を説明することが苦手」という児童生徒は多いです。例えば、「方程式 $3x+5=17$ を解きなさい」という問題であれば、8割程度の正答率ですが、方程式の形式的な操作「移項」の意味理解を問う問題の場合、正答率が6割程度と驚くほど下がります。（右のQRコード）

これは「簡単な一次方程式を解くことができる」よう、技能の習得に特化しすぎた授業が行われていることが、その要因の一つとしてあげられます。「なぜその操作が成り立つのか」について教師がサッと説明し、子どもたちは方程式をひたすら練習する授業になっていないでしょうか。



- ・既習内容に基づいて子どもたちが説明する場面を設定する。
- ・子どもたちが理解できるよう、一部の子ども1回の説明で終えず、ペアで説明し直したり、全体で何度か説明したり場面を設定する。

先日、「方程式移項の意味理解」の問題を扱った授業を行い、最後に確認問題として「やまぐちっ子学習プリント DASH」に取り組みました。授業の振り返りから、子どもたちは、自分の課題を把握し、1年間の復習の必要性を感じていることがわかりました。このように、子どもたちが自己の学習活動を振り返って、次の学びに生かそうとするまで教師が適切に伴走支援し、課題を課題のままにしないことが大切です。

